

## 「森林遺伝育種」投稿・執筆要領

**本誌の目的と掲載される内容** 「森林遺伝育種」は、森林遺伝育種学会が定期的に刊行する和文の研究情報誌である。森林遺伝学と林木育種学および林木育種事業の発展、ならびに関連技術手法の向上と普及を図ることを目的として、森林遺伝と林木育種およびそれらに関連する分野に関する記事が掲載される。

**記事の種類** 記事の種類は原著論文、総説、解説、話題、意見、資料、その他に分けられる。  
原著論文：新たに得られた研究結果を示し、考察したもの。未発表のものに限る。  
総説：各分野の現状を総括し、今後の展望を記述したもの。未発表のものに限る。  
解説：新規あるいは既存の概念、理論、手法、知見を解説したものや、国際誌に公表された論文や博士論文を紹介したもの。  
話題：研究や事業への取り組み、その他の活動などを紹介したもの。  
意見：研究、事業、教育などに関する意見を記述したもの。  
資料：学会記事や各種資料。  
その他：編集委員会が認めた上記以外の記事。

**投稿資格** 投稿は会員に限る。共著の場合、原著論文と総説の原稿では筆頭著者か責任著者のどちらか、それら以外の原稿では筆頭著者が必ず会員でなければならないが、他の著者には非会員を含むことができる。ただし、編集委員会が認めたときはこの限りではない。

**投稿と査読** 原著論文と総説は会員の投稿による。担当編集委員のもとで複数の査読者が査読を行う。査読の結果、内容に問題があるときには、投稿者に修正を依頼する。編集委員会が掲載の可否を判断する。

解説、話題、意見、資料、その他は編集委員会からの執筆依頼にもとづく投稿、あるいは会員の投稿による。提出された原稿を編集委員が確認し、編集委員会が掲載の可否を判断する。

**ページ数制限** 記事の長さは、原則として、刷り上がりページ数で原著論文が 6 ページ（目安として図表を除いて 7,000 字）、総説が 8 ページ（9,000 字）、解説が 6 ページ、話題、意見、資料が 4 ページ（5,000 字）までとする。その他の記事は、編集委員会が別途定める。

**投稿方法** 原稿のファイルを電子メールに添付して編集委員会宛（[fgtb-editorial@ml.affrc.go.jp](mailto:fgtb-editorial@ml.affrc.go.jp)）に送付する。

**校正** 著者校正は原則として初校に限り、誤植の訂正にとどめる。

**著作権** 本誌に掲載された記事の著作権は森林遺伝育種学会に帰属する。著者は、本会ウェブサイトにおける記事の公開までに、著作権譲渡承諾書を編集委員会に提出して、その著作権を本会に譲渡する。ただし、著者には以下の権利が認められている。

(1) 出典を明記することを条件として、著者の記事の全体または一部を著者自身の他の著作物に転載すること。

(2) 本会ウェブサイトにおいて公開された著者の記事の PDF ファイルを所属機関や研究資金提供機関のリポジトリおよび著者個人のウェブサイト等に収録して公開すること。

(3) 本会ウェブサイトにおいて公開された著者の記事の PDF ファイルを電子的に複製して、あるいは印刷して配布すること。

## 原稿の執筆

### 1. 原稿の形式

ワードプロセッサを使用して原稿を作成し、1つのファイルにまとめる。Microsoft Word のファイルが望ましいが、それ以外の場合は編集委員会に問い合わせること。

原稿は、A4 版、縦置き、横書きとする。上下左右に 30mm 程度の余白を設け、文字サイズは 12 ポイント、文字数は 40、行数は 20 とする。ページ番号と行番号をつける。外国語を用いるのは、その必要がある場合に限る。生物名は原則として和名（カタカナ）とし、初出の箇所に学名（イタリック表記）をつける。単位は国際単位系（SI）を用いる。句読点は「。」と「、」とする。

原稿の構成は、表紙、要旨（原著論文と総説のみ）、本文、引用文献、図の説明、表、図とし、それぞれを以下のように作成する。

### 2. 表紙

最初に、原稿の種類を記載する。次に、原著論文と総説では、表題、著者全員の氏名、所属先（以上、日本語と英語）、所属先住所（英語のみ）、責任著者の氏名と電子メールアドレスを記載する。原著論文と総説以外の原稿では、表題、著者全員の氏名、氏名のふりがな、所属先、責任著者の氏名と電子メールアドレスを記載する。

### 3. 要旨

原著論文と総説では、日本語の要旨（500 字以内）とキーワード（表題に含まれない語句 5 つ以内）、それらに対応する英語の要旨（200 語以内）とキーワードを記載する。

### 4. 本文

適宜、節に分けて、見出しを付けて記述する。原著論文の場合は、通常、はじめに、材料と

方法、結果、考察に分けられる。謝辞がある場合は見出しを謝辞とし、本文の最後に記述する。

## 5. 引用文献

引用した文献を著者名のアルファベット順に記載し、同一著者の文献が複数ある場合は発表年順とする。著者（著者が3名以上の文献は筆頭著者）と発表年が同一の場合は、年の後に小文字のアルファベットを付して区別する。

本文中では、田中ら（1998）、Tanaka and Suzuki（1996）、Tanaka et al.（2011）、あるいは（田中・鈴木 2006; Tanaka et al. 2011）のように引用する。印刷中のものは著者名に印刷中（in press）をつける。また、未発表のものは著者名に未発表（unpublished）をつけて引用することができるが、その際、姓名を略さずに書き（英文のものは名の頭文字と姓、たとえば M. Tanaka のように）、引用文献には記載しない。

引用文献の記載方法は、以下の例に従う。

（雑誌）

松本麻子（2010）コナラ・ミズナラ・カシワの樹種識別と種間雑種の検出－AFLP マーカーを利用して－. 林木の育種 234: 9–12

Katsuki T, Shimada K, Yoshimaru H (2011) Process to extinction and genetic structure of a threatened Japanese conifer species, *Picea koyamae*. Journal of Forest Research 16: 292–301

（書籍）

長谷川正美・岸野洋久（1996）分子系統学. 岩波書店, 東京

White TL, Adams WT, Neale DB (2007) Forest genetics. CABI International, Wallingford, Oxfordshire, UK

（書籍中）

生方正俊（2011）森の樹木の品種改良. 北方森林学会編, 北海道の森林, 242–248. 北海道新聞社, 札幌

Hamrick JL, Godt MJW (1989) Allozyme diversity in plant species. In: Brown AHD, Clegg MT, Kahler AL, Weir BS (eds) Plant population genetics, breeding, and genetic resources, 43–63. Sinauer, Sunderland, Massachusetts

（報告書）

林野庁中部森林管理局（2016）三浦実験林 50 年史－木曾ヒノキ林の持続に向けた天然更新技術の開発と検証－. 長野

鳥取県（2016）平成 27 年度鳥取県林業統計. 鳥取県農林水産部, 鳥取

Conkle MT, Hodgskiss PD, Hunter SC (1982) Starch gel electrophoresis of conifer seeds: A laboratory manual. USDA Forest Service General Technical Report PSW-64, Pacific Southwest Forest and Range Experiment Station, Berkeley, California

（ウェブサイト）

環境省（2012）第 4 次レッドリストの公表について. <http://www.env.go.jp/press/15619.html>（2015

年3月9日アクセス)

Goudet J (2002) FSTAT, a program to estimate and test gene diversities and fixation indices (version 2.9.3.2). <http://www2.unil.ch/popgen/softwares/fstat.htm> (2016年12月14日アクセス)

## 6. 図の説明

本文中の引用順に図-1のような通し番号を付けた表題を記載し、その後続けて、本文を読まなくても理解できる程度に説明を加える。写真も図とする。

## 7. 表と図

表は1ページに1つずつ作成する。縦の罫線を省き、横の罫線もできるだけ省く。刷り上がり1ページに収まる大きさを限度とする。表の上に、本文中の引用順に表-1のような通し番号を付けた表題を記載する。表の下に脚注として、本文を読まなくても理解できる程度に説明を加える。

図も1ページに1つずつ作成する。上端右に通し番号を記載する。冊子で図のカラー印刷を希望する場合には、その製版印刷の全額を著者の負担とし、投稿時にその旨を編集委員会に伝える。カラー印刷の希望がない場合には、冊子の図はモノクロ印刷となる。

**問い合わせ先** 投稿・執筆等に関する問い合わせ先は、森林遺伝育種学会編集委員会 (E-mail: [fgtb-editorial@ml.affrc.go.jp](mailto:fgtb-editorial@ml.affrc.go.jp)) とする。

2012年4月12日(投稿規定)、2012年6月5日(執筆要領) 制定

2016年12月16日改定